



飛驒市長 都竹 淳也



新年明けましておめでとうございます。日頃の市政へのご支援とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染症法の位置付けが5類に引き下げられ、春の古川祭、神岡祭をはじめ、各町で様々なイベントが開催されるなど、市内にも活気が戻り、市民の皆さんの生活が徐々にコロナ禍前の状態に戻ってきたことを感じられた1年となりました。

そのような中で、日頃から市民の皆さんの暮らしを見極め、特に弱い立場にある方々への支援に重点を置きながら、市民生活や企業活動を応援してまいりました。

特に物価高が常態化する中では、国や県の対策から漏れ落ちる分野をカバーし、市がセーフティーネットを構築するという方針のもと、高齢者等生活弱者の方や、賃金の底上げ・コストへの適切な価格転嫁が困難な分野に対して支援策を講じてまいりました。具体的には、低所得世帯の方々への支援給付及び灯油券の交付、高齢者の方々へのいきいき券の追加交付のほか、医療・介護・福祉施設等における光熱費、学校給食の食材、畜産に不可欠である粗飼料、そして指定管理施設における光熱費など、様々な分野において物価高騰に対する支援を実施してきたところです。こうした支援策を実施するまでの過程では、多くの皆様のご協力を得て、定期的に暮らしや事業の状況についてのお話をお伺いし、迅速に対策を立てるという作業を繰り返しました。この間、市民の皆さんとの一体感を感じられる場面が多くあったことは非常にありがたいことと感じております。

また、市ではこれらと並行して、「元気であんきな誇りの持てるふるさと飛驒市」の

実現に向け、前向きな取組みも積極的に進めてまいりました。同時に市民や市内事業者の方々の素晴らしい取組み、ご活躍の場面も数多く見受けられたところです。

「元気」という面では、飛驒市の特産品を都市部で紹介しマーケティングを行うイベントや、広葉樹から生まれるクラフトや市特産品の展示会を開催しました。広葉樹のまちづくりでは広葉樹の安定供給を目的に古川町内で飛驒市広葉樹活用推進コンソーシアム製材所も稼働し始めました。

関係人口増加を目指す取組みでは、全国各地において飛驒市に思いを寄せてくださる飛驒市ファンクラブの皆さんとの交流も深めてまいりました。飛驒みやがわ考古民俗館においても石棒クラブによる活動を行いながら、市内外のファンを増やしていることで、全国からも高い評価をいただいています。

さらには、旧神岡鉄道や市内の商店街など飛驒市をオールロケ地として撮影が行われた映画「雑魚どもよ、大志を抱け！」の劇場公開、レールマウンテンバイクガッタンゴーの乗車人数が5月に累計50万人を突破し、年間の入込客数も過去最高を記録するといううれしい出来事もございました。

次に、「あんき」という面では、医療と福祉の在宅系サービス事業所を集約した「飛驒市多機能型障がい者支援センター古川いこい」を開所したほか、吉城福祉会と神東会により持続可能な福祉体制構築を目的とした社会福祉連携推進法人「共創福祉ひだ」が県内2番目の法人として誕生したところです。

また、山間地域における買い物弱者の方々への支援としては、民間事業者と連携し郵便局を活用した新たな地域での物品

販売や、市営バスを活用して乗客と商品の輸送を一緒に行う貨客混載も開始しました。

次に、「誇り」の面では、飛驒市美術館、神岡城のリニューアルを行いました。また、「姉小路氏城跡」が10月に国史跡指定の答申がなされ、今後の活用も期待されるところです。河合町では伝統的な地歌舞伎公演もコロナ禍前に近い状態で開催されました。さらにスポーツ分野や文化活動分野においては、子ども達をはじめ、市民の皆さんの活躍も多くあり、明るいニュースとして多くの市民に元気を与えてくれました。

今年、飛驒市は合併20年を迎えます。人間で言えばバタチです。まさしく名実ともに、独立した一人前の自治体として、また文字通りの一つのまちとして、未来に向けた歩みを進めていかなければなりません。このような中で市に求められているのは、人口減少がさらに進むと見込まれる中でも、飛驒市を未来の人たちに残していくための「持続可能なまち」とすることです。こうした考えのもと、引き続き「持続可能なまちづくり」、「持続可能な産業づくり」、「持続可能な市役所づくり」の3つの柱のもとで、これまでの取組みをさらに充実・深化させつつ、中長期的な視点に立った市政を目指していく必要があると考えております。

物価高に対し賃上げが追い付いていないなど、日本経済も多くの課題を抱えておりますが、引き続き丁寧に市民の皆さんの声をお聞きしながら、必要な対策をしっかりと講ずることで誰もが楽しく過ごせる年となるよう頑張っけてまいります。

新しい年が皆さんにとって幸多き年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

飛騨市議会議長
住田 清美

明けましておめでとうございます。輝かしい新春をご家族お揃いでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

年頭にあたり、市議会を代表し新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆さんには、日頃から議会運営や議会活動に対し、温かいご支援ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、ようやくコロナ禍前の活気を取り戻し古川祭、神岡祭ともに盛大に執り行われ、5月8日の5類移行後はさまざまな行事が開催されるようになってきました。

市政では、旧和光園をリノベーションし、「飛騨市多機能型障がい者支援センター古川いこい」が7月1日からオープンし、地域で安心して健康で暮らせるよう備えをしながら支援していく中核施設となりました。

10月には、かつてこの地を治めていた国司の5つの城跡からなる「姉小路氏城跡」が国史跡に、神岡町の「傘松城跡」が国史跡江馬氏城館跡に追加指定の答申がされました。

議会活動におきましては、市内18会場での市民との意見交換会や、地域部活動化、クマ対策などの所管事務調査、常任委員会における管外視察などを実施し、10月にはとりまとめた要望書を市長に提出いたしました。

広報広聴特別委員会では、議会だよりを一部カラー化し見やすさ・読みやすさを追求するとともに、広報モニターによるアンケート調査を実施し、結果についてはホームページにて公表させていただきました。モニターからいただいた貴重な意見を参考に今後もより親しみやすい紙面づくりに努めてまいります。

議会改革特別委員会では、本会議場のバリアフリー化等のあり方について調査を重ね、市当局へ結果を報告させていただきました。

さて、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、市民生活は取り戻しつつあるものの、依然として混沌としている世界情勢に加え円安等の影響による物価高騰は高止まりが続いており、食料品、燃料、事業用資材等の値上がりにより生活全般において、これまでにはなかったような生活のしづらさを感じておられると思います。

このような状況の中、国の経済政策が打たれ、市としてもその対策の行き届かない分野の支援を行っているところです。

今年は市制20周年を迎え、記念行事が開催されるなど節目の年になります。

市議会としても、市民の皆さんの多様な意見に耳を傾け、市から打ち出される政策に注視しながら、市民の皆さんが安心して暮らしていけるよう議会活動を進めてまいりますので、皆さんのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、市民の皆さんにとりまして、本年が大きく飛躍する年となり、明るい一年となりますよう、議員一同、心よりご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。